

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700365		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム十勝の杜		
所在地	中川郡幕別町札内豊町39番地の3		
自己評価作成日	平成26年1月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に位置し、周囲には公園やスーパーがあり利用者様の散歩や買い物などの活動を行ないやすい環境にあります。小規模な生活の場として、集団でなく個別の関わりを多く持てるように、職員の配置人数を厚くしています。  
安心で心豊かな生活を提供することを目標に、健康維持に欠かせない食事については、栄養バランス・季節感・個人の嗜好に配慮し提供しています。行事や外食の際は、利用者様の希望を聞きながら企画しています。  
協力医療機関による定期的な訪問看護と往診を受け、状態の変化にも適切な助言と診療で出来る限りホームでの暮らしを継続して頂ける様に支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北海道内25ヵ所で介護サービスを展開している法人が運営している、ふれあいの里グループホーム十勝の杜は、国道沿いの商業施設等から程近い閑静な住宅街に立地した2階建て2ユニットの事業所となっている。平成24年7月、法人の大規模な改革に伴い、当事業所でも組織改革が行われ、日中帯の人員を増加する等、職員の配置を工夫する中でより利用者との関わりが持てる様になったり、職員の発案した新たな取り組みを実施し、ケアの幅を広げ、更なるサービスの質の向上にと取り組んでいる。法人として計画的、段階的に研修の機会を設け、職員育成に努めている。更に、管理者は職員の専門性を育て、仕事に対する意欲を高める為に利用者への担当制を実施し、職員を導くと共に、事業所が利用者にとって第二の我が家となる様、快適な空間造りに努めている。開設時からの理念「よるこびの輪が私たちのしごとです」は日々のサービス提供の拠りどころとして職員間で浸透を図ると共に、毎月のミーティング時に具体的な目標を掲げ実践に取り組んでいる。事業所内では利用者職員とのコミュニケーションが良く取られ、和やかな明るい雰囲気と成っている。又、協力医との連携が密に取られ、利用者、家族の安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての方向性に迷う時には、理念を再確認し取り組んでいる。常に見える場所(玄関)に掲示している。	開設時からの理念は玄関、リビング等、目に付く所に掲示し、日々のサービス提供の拠りどころとしている。更に、毎月各ユニット毎に目標を立て、具体的な実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GH協議会・GH協会に所属し、定期的な研修や会議に出席している。事業所間の交換研修にも参加している。	町内会に加入し、班の総会や新年会に出席し、事業所への理解を得ている。子供会花火や花見等行事に参加したり散歩時に挨拶を交わし交流に努めている。介護ポイント制を利用し、ボランティアの受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告の中で、認知症の症状についても説明しながら伝えている。入居申込みや見学の際に、相談内容によっては他の居宅サービスも紹介している。(小規模多機能型居宅介護など)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	1回/2月開催し、報告事項の他に地域関係者やご家族からの質問・要望を確認している。	利用者家族、町内会区長、民生委員、地域包括支援センター職員、役場担当者等が出席し、2か月毎定期的に開催し、サービス向上に活用している。家族全員に出席を促すと共に議事録も全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事業所として必要な報告と相談の他に、退居があった場合には、幕別町住民の生活の場として対応できるよう連絡している。	年1~2度の地域ケア会議への出席や情報交換、相談等、行政と密に連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員、行政担当職員の出席を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在 身体拘束はしていない。認知症の周辺症状により状況は変化すると思われるが、家族や往診医と連携し可能な限り現状維持したいと考えている。	外部研修に参加した職員がミーティングにて内部研修を実施し、身体拘束禁止事項を職員全員で理解している。やむを得ない場合に備え、マニュアルを整備し、手順を定めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加した場合には、情報の共有をしている。今後は2回/年の頻度で全員が学ぶ時間を設けたい。		

ふれあいの里 グループホーム 十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記制度利用の方については、当事業所として係るべき部分で支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込みの時点でも不安や誤解のない説明を心掛け、書面と口頭で説明を行なっている。入居後も、同様に必要時確認し不安の無いよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への連絡事項によっては、事業所としての対応について内容を確認している。運営推進会議でも質疑応答の時間を設けている。	家族の面会時に状況を報告し、希望や要望の把握に努めると共に、年に一度法人会社がアンケートを実施している。2か月に一度事業所便りを発行したり、写真に一言添えて日頃の様子を伝え、何でも行って貰える関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでのミーティングや、個人面談等で意見要望を聞き取っている。	管理者は年に1~2回職員に対して個人面談を行い意見や要望の把握に努め、就業環境整備に努めている。又、管理者は、日中帯の人員を厚くし、職員が自らのアイディアを運営に反映出来る様、指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25・10より社員制度の改正があり、介護福祉士所持で勤続3年以上の職員は、面談で就労条件の確認ごとに正職員に移行。他職員についても、特別休暇の付与等の条件変更。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての職員教育制度により、役職者研修や段階別研修・目的別研修を実施している。その他勉強会を事業所で開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の相互研修に参加し、他GHとの交流の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と面談し、生活歴や現状で困難な事を聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に、本人の意向と併せて家族からの要望も聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の生活で予想される身体状況の変化や、事故についてはどの時点で連絡するのかを確認し、介護計画に記載している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の意向を確認しながら調理や洗濯干し等を職員と共に取り組んでいます。適度な運動やレクリエーションへ誘導し会話の中で笑顔に過ごして貰える様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡や通院介助は管理者や計画作成担当者が行なっている。来訪時に一緒に過ごす機会がある時は職員も最近の状況を伝え家族との関係を築ける様に努めているが苦手な職員もいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みのある写真等を置いたり馴染みの場所へ行きたいと希望がある際は家族と協力し本人の思い出が途切れない様に支援しています。	昔からの馴染みの場所や行きつけの美容室、かかりつけの歯科医等、利用者のこれまでの関係継続支援を家族と協力しながら実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活パターンに合わせて、時間や場所の共有を目的にした行事や、趣味の活動に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に他施設の申込みを確認し、退居につながる事由があった場合には、家族と話し合い、本人や家族が納得できる方向性を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からケアプラン更新時期や来訪時に暮らしの希望を聞き、個々にできる事は違う為本人本位に検討し希望に添える様に努めています。	管理者、職員は日常の利用者とのふれあいの中で、なにげない言葉や様子から意向や希望の把握に努め、職員間で共有し、時には家族の協力を得ながら実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や関係施設から情報を頂き、その人らしさを把握するよう努めています。生活において発見した事は活かせるように情報を記録を残し定期的に閲覧し検討する事に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の興味・関心ごと事を定期的に職員で検討し、本人の意思を確認しながら支援に努めている。出勤時に業務日誌の確認や口頭で連絡し職員間で情報を共有出来る様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に合ったケアが出来る様に定期的にモニタリングを行い、ミーティングでケア内容を検討しています。又ご家族と情報交換し意向を踏まえてプランの作成を行っています。	サービス担当者が家族の意向や希望を伺い、職員や医療関係者の意見を反映し、状況に即した介護計画を作成している。毎日の介護記録に介護計画の短期目標を記載しており、毎日評価し、見直しに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日々の記録で入居者の変化等を確認している。ケアプラン更新時期に本人・家族に提案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望する場合には、協力医療機関にとどまらず、適切な医療を受ける支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での生活継続の為に、本人にとって必要な事は継続している。家族の協力を得ている事も多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関での受診だが、馴染みの掛かりつけ医がある場合はその限りではなく、往診や医との連携が出来るように支援している。	協力医による月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を行っている。さらに従来のかかりつけ医との関係も大切に家族対応での受診を基本とし情報を共有して適切な医療体制が築けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護では、前日までに報告書を送付している。日常の記録を医療の視点から助言を受け、本人の生活に合わせて実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一日も早くホームへの復帰が出来るように、本人や家族の希望とホームでの方針を医療機関に伝え、情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に係る指針を説明。入院や治療が必要になった時点でも、今後の方向性について話し合う時間を作っている。必要に応じて担当医師からの説明に同席している。	重度化した場合の対応に係わる指針を作成し、利用契約時に説明し同意を得ている。又、終末期における看取りケアについては、医師の指示のうえ利用者、利用者家族の意思を尊重し、話し合いで決定するとし、出来る限りの対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救普通命救急講習を職員全員で受講しています。又事業所でマニュアルを作成し目につく所に置いてあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、日中や夜間を想定した訓練を行なっています。家族や地域の方々にも参加を募り、ホーム利用者の実際の動きや対応を感じ取って頂いています。	年2回日中と、夜間を想定した、通報、避難訓練を消防署の指導の下実施している。地域住民には避難訓練の案内チラシを作成し、参加を呼びかけ、運営推進会議に合わせ実施している。	火災以外の災害への対策は、今後の課題と成っている。又、地域住民への協力要請は行っているが更なる体制構築を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として丁寧な言葉使いをするように心がけていますが口調が雑になる場合もあり職員間で気を付ける様に努めています。又入浴や排泄時も配慮ある対応を心がけています。	毎日の生活を共に過ごしていると馴れ合いになりがちであるが、家族にとっては大切な親や兄弟であり、年長者として尊敬し、プライバシーに関わる介護等には、人格を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に声掛けや確認をしてからケアに当たる様に努めています。自己表現が困難な方には気持ちが察せる様にコミュニケーションを取り理解できるように努めています。可能な範囲で選ぶ機会を提供出来る様に配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険が無ければ本人の意向に沿った生活を送れるように支援しています。レクやゲーム・テレビ鑑賞・散歩など希望を聞きながら行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の髪の毛の乱れ・目ヤニ・口腔内や衣服の汚れなど確認しています。又希望のある方には衣服を選んで頂くなど心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のしたい事やできる事を把握し本人の希望を確認しながら家事の手伝いを一緒にしています。食事の盛り付けに気を付け、誕生日の食事外出をする時は希望を聞いて取り組んでいます。	系列の配食会社の管理栄養士によるバランスの取れた献立を提供している。利用者の希望は主に誕生会等の行事や、外食時に提供され楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を元に調理しています。食事や水分量を記録し必要量が摂取出来るよう取り組んでいます。体調不良時に食事量低下がある時は栄養補助ドリンクの代用や飲用しやすい物で体力回復を図れる様に取り組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合わせた口腔ケアを行なっています。仕上げに職員が歯間ブラシや口腔用スポンジを使用し磨き残しの確認を行い、口腔内に異変があった場合は家族に確認後歯科往診を受けています。年に1回歯科往診を利用し助言を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々合わせた排泄パターンや水分摂取量を把握しトイレでの排泄が続けられる・失禁の軽減を目指し清潔保持に努めています。	生活記録の中で時間を追った排泄記録を作成し、利用者一人ひとりの状況に合わせた時間での誘導等を行っている。声かけの際には、言葉に気をつけ尊厳に配慮した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔と形状を把握すると共に、その人の活動量や水分食事量の把握をしています。個々に合わせて腹部マッサージや飲用しやすいフルーンエキスを毎日摂取し日常的に便秘予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて日中帯で入浴を行っています。体調不良時や外出などで入浴の順番や翌日に変更する事もあります。	基本的には週2回の入浴を心がけ、体調や気分を考慮し取り組んでいる。脱衣室、浴室には暖房が入り、浴槽は三方から介助できるように設置され利用者一人ひとりに沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	光や音、温度や湿度に気を配り安眠出来る様に支援をしています。本人が休息の希望があれば意向に沿えるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を所定の場所に置き理解するように努めています。症状や服薬の変更など所定の用紙に記載し職員全員で共有できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が自然と手伝ってくれる事が継続して出来る様見守りをしている。本人や家族からの昔からの習慣を聞き、できる事・やりたい事を把握し支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム 十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ外に出掛け気分転換になるよう努めています。又年に数回外出レクを企画し普段と違う活気ある時間を過ごせるよう取り組んでいます。	利用者の体調や天候を考慮しながら近隣の施設や公園への外出を多くしたり、公園での子供たちとの花火大会等楽しい企画設け、生活にメリハリがつくように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはしていないが、外出や本人希望の買い物がある場合は、自己選択の機会は作っている。またはご家族との外出で協力を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り支援しているが、その事によって精神的に不安定になる人には、家族と相談し取り扱いを決めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は自然光が入り24時間空調換気・温度湿度計を置き適切な温度になるよう冷暖房の調整を行っています。又毎日掃除を行い清潔に過ごせるよう努めています。季節感を感じて頂ける様に飾りつけに配慮しています。	居室、食堂とゆったり配置され24時間換気を利用しながら職員により温湿度を管理し、清潔で快適な状態が保たれている。更に隣室に和室が配置され落ち着いた雰囲気があり、利用者がそれぞれの時間を快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室と廊下南側に2人用ソファがあり休む事が出来るが一息つく程度である。居間では気の合った方が並んで座る事が多くソファの位置など工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にベットやタンスなど使い慣れた家具や写真や飾り物など思い出の品を置かれています。	居室は床暖房で、備え付けのクローゼットの他、利用者の使い慣れた鏡台や筆筒等の家具が配置されている。又、家族の写真等が飾られ居心地よく暮らせる様に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には目立つように名前を貼り利用者が迷わず自分で行けるよう取り組んでいます。廊下に手すりを設置しホーム内に段差を無くし安全に歩行や車椅子の自走を行なえるよう取り組んでいます。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700365		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム十勝の社		
所在地	中川郡幕別町札内豊町39番地の3		
自己評価作成日	平成26年1月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194700365-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての方向性に迷う時には、理念を再確認し取り組んでいる。常に見える場所(玄関)に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GH協議会・GH協会に所属し、定期的な研修や会議に出席している。事業所間の交換研修にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告の中で、認知症の症状についても説明しながら伝えている。入居申込みや見学の際に、相談内容によっては他の居宅サービスも紹介している。(小規模多機能型居宅介護など)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2月開催し、報告事項の他に地域関係者やご家族からの質問・要望を確認している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業所として必要な報告と相談の他に、退居があった場合には、幕別町住民の生活の場として対応できるよう連絡している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在 身体拘束はしていない。認知症の周辺症状により状況は変化すると思われるが、家族や住診医と連携し可能な限り現状維持したいと考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加した場合には、情報の共有をしている。今後は2回/年の頻度で全員が学ぶ時間を設けたい。		

ふれあいの里 グループホーム 十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記制度利用の方については、当事業所として係るべき部分で支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込みの時点でも不安や誤解のない説明を心掛け、書面と口頭で説明を行なっている。入居後も、同様に必要時確認し不安の無いよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への連絡事項によっては、事業所としての対応について内容を確認している。運営推進会議でも質疑応答の時間を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでのミーティングや、個人面談等で意見要望を聞き取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25・10より社員制度の改正があり、介護福祉士所持で勤続3年以上の職員は、面談で就労条件の確認ごとに正職員に移行。他職員についても、特別休暇の付与等の条件変更。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての職員教育制度により、役職者研修や段階別研修・目的別研修を実施している。その他勉強会を事業所で開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の相互研修に参加し、他GHとの交流の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と面談し、生活歴や現状で困難な事を聞き取っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に、本人の意向と併せて家族からの要望も聞き取っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の生活で予想される身体状況の変化や、事故についてはどの時点で連絡するのかを確認し、介護計画に記載している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に心掛けてはいるが時々一方的になってしまう事があるので会話を減らさずこちらからの話し方も工夫して関係を築きたい。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状職員は家族と挨拶をする程度が殆どでそこまでの関係性は築けていない。ホーム長・リーダーが窓口となり密に連絡を取っている。職員も訪問の際には挨拶のみにとどまらず近況報告など会話を増やして行きたい。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	プライバシーの問題や入居前からの関係性もあり、一部入居者のみとなっている。個々の生活歴や環境を熟知したうえで状況や感情に応じた支援に繋がりたい。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に馴染みのある写真等を置いたり馴染みの場所へ行きたいと希望がある際は家族と協力し本人の思い出が途切れない様に支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人の生活パターンに合わせて、時間や場所の共有を目的にした行事や、趣味の活動に取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を聞いてはいるがそれをケアに反映できていない部分がある。流れ作業的にならず、個々の希望にそえるよう対話を増やし現状に満足することなく常に探究していきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや本人から聞く事によりほぼ把握できている。情報交換・共有により今後も継続していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で些細な変化も見逃さないように努め、残存能力を活かせる支援に繋げる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングなど意見交換の場を設けてはいるが具体的に出てくる案は多くはなく意見も分散され介護計画に反映されるのは僅かである。利用者本位の元積極的な関わりを持つ事により自ずと意見やアイデアが生まれてくると思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日々の記録で入居者の変化等を確認している。ケアプラン更新時期に本人・家族に提案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望する場合には、協力医療機関にとどまらず、適切な医療を受ける支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での生活継続の為に、本人にとって必要な事は継続している。家族の協力を得ている事も多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関での受診だが、馴染みの掛かりつけ医がある場合はその限りではなく、往診医との連携が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護では、前日までに報告書を送付している。日常の記録を医療の視点から助言を受け、本人の生活に合わせて実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一日も早くホームへの復帰が出来るように、本人や家族の希望とホームでの方針を医療機関に伝え、情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に係る指針を説明。入院や治療が必要になった時点でも、今後の方向性について話し合う時間を作っている。必要に応じて担当医師からの説明に同席している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の年2回実施、救命講習の受講を年1回している。当日欠席の者にも伝える又は別会場にて受講。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での防災組織作りが平成25年4月より具体的に始まっているので、事業所として地域との協力体制については検討の余地あり		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者に合わせた声掛けを心掛け、特に排泄・入浴時には細心の注意を払うことに努力している。ご本人の状況に応じた声掛けができるように勉強会・ミーティングなど継続したい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合が先に立ったり、意見を述べやすい環境になっているか疑問だ。働きかけが上手く出来ない時もあり言い出しやすい関係の構築が課題。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿うように支援しているが出来ない時もある。強制はせず叶えられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の訪問理・美容を利用したり、行きつけの店へ行く方もおり個々の希望に合わせている。服装も好みに合った物を職員と共に選び整容にも気配りしている。女性入居者も増え化粧をする日を設けてみたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のADLや体調などを見ながらやりたい気持ちのある方には手伝って頂いている。行事の時には皆で楽しめる季節感のあるメニューを考案。形状についても配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に応じチェックし栄養補助食品の活用、嗜好品も交えながら行っている。栄養摂取についての理解や、個人に合わせた方法を職員全員で学ぶ時間を作っていきたい		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則的に毎食後に声を掛け誘導している。拒否がある場合には、他の状況も見ながら本人が納得する関わりを検討している。協力医療機関の歯科があり、定期的な健診と必要時に往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々体調に合わせたおむつを使用しているが、自立に向けた具体的な支援は乏しい。気持ちの良い排泄支援についても意思表示が難しく介護側の考えにより行なっている事が多く満足度は不明。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確認や不足している時の工夫など取り組んでいる。運動不足と感じた時にはフロア内を歩くなど必要に応じた声掛けや支援を行っている。食事の内容についても検討し献立に反映できるよう献立会議を予定している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全て個々の希望に沿えてはいないが、曜日希望やその日の体調・気分を考慮している。入浴剤などを使用し香りや色も工夫し寛げる環境をつくっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は比較的良眠な方が多い。休憩時間や就寝時間は一斉でなく個人で違う。睡眠導入剤を使用する人はほとんどなく自然な睡眠がとれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更がある場合には、申し送りや記録で伝達している。服薬について用法や副作用については今後も周知が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事的な事が得意な方には手伝って頂いている。各入居者担当の職員も日々どういう暮らしを望まれているのか考え、ミーティングなどで検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望には沿えない時もある。暖かい時期は頻繁に近隣へ散歩に出かけていた。予め分かっている事には支援出来ている。普段行けないような場所については家族支援がほとんどで、地域ぐるみでの支援に関しては前例がないので今後の課題でもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはしていないが、外出や本人希望の買い物がある場合は、自己選択の機会は作っている。またはご家族との外出で協力を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り支援しているが、その事によって精神的に不安定になる人には、家族と相談し取り扱いを決めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りつけを入居者と共に行っている。浴室・トイレ・居室などには張り紙にて迷わない工夫をしている。居室の飾りつけが少ない人もいるので考えていきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの人がご自分で居場所を決めている。食堂の座席のみADLや個々の関係性も含めて座席を考えながら必要に応じて変更もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居・面会の際には自宅で長年使用していた家具や馴染みの品物を持参してもらい、心地よく暮らせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を把握し、常にできること出来ないことの見極めをしながら自立支援に繋げている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム十勝の杜

作成日：平成 26年 2月 25日

市町村受理日：平成 26年 2月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の地域との協力体制作りが課題	1、町内会活動に積極的に参加する 2、避難訓練の近隣住民への参加呼びかけ	1、公区総会や行事の日程・内容を把握し事業計画に組み込む 2、避難訓練については、運営推進会議で公区代表者に提案と、回覧板や訪問で参加呼びかけ	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。